

## 第4回 大谷・小鹿地区まちづくり検討会議

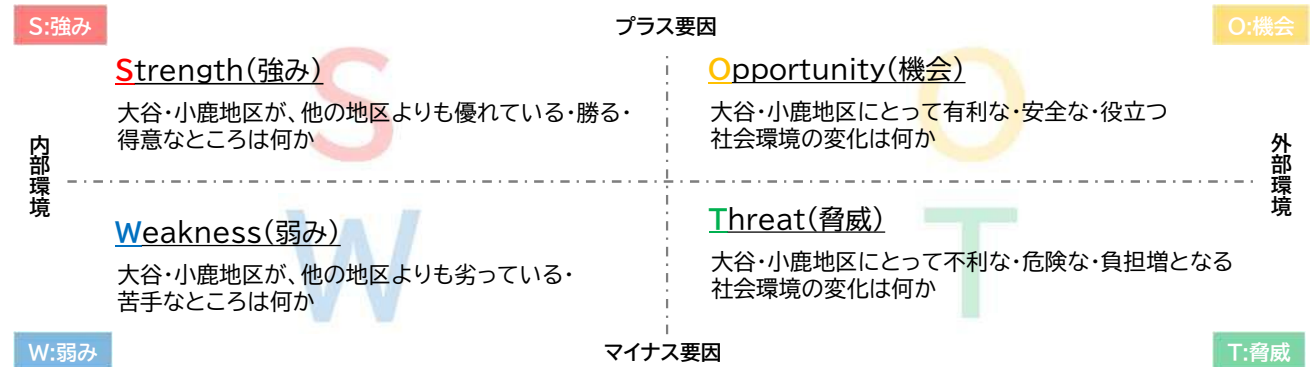
## 大谷・小鹿地区の強み・弱みについて

令和5年2月2日



## (1) SWOT分析について

- ・SWOT分析は、地区の内部環境を「強み」と「弱み」に、外部環境を「機会」と「脅威」に整理する環境分析手法
- ・まずは、現状分析として、地区の強み・弱み・機会・脅威の4つの要素について列挙



- ・続いて、SWOTの各要素をマトリクスに整理することによって、「持っている強みを与えられた機会に活かそう」、「来るべき脅威に備えよう」、あるいは、「弱みを克服して新しい取組みに変えていこう」といったまちづくりの方針の立案に繋げることができる

		外部環境	
		機会	脅威
内部環境	強み	<b>【積極攻勢】方針</b> 地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか。	<b>【差別化】方針</b> 強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか。
	弱み	<b>【弱点強化】方針</b> 弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか。	<b>【防衛・撤退】方針</b> 想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか。

## (2) 地区の強み・弱みについて(コミュニティ・モビリティ)

- ・コミュニティ・モビリティの視点で、地区の強み・弱み・機会・脅威について列挙
- ・視点ごとの課題や地区特性から、改めて地区の現状について理解を深め、まちづくりの方針検討に繋げる

### 【コミュニティ】

内部環境	<b>S:強み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治会、企業、学生、子ども等、既存で多様な主体が存在</li> <li>○大学生や子ども達を対象にした既存のまちづくり活動やイベントが行われている</li> <li>○地区の歴史が深く、行事、地域資源等が豊富</li> <li>○SICに隣接しており、広域での来訪者が見込まれる</li> </ul>	<b>O:機会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土地区画整理による基盤整備、土地利用の開始</li> <li>・新たなコミュニティ形成</li> <li>・プラットフォーム構築(検討会議設立)</li> <li>・新たなイベント開催</li> </ul>	外部環境
	<b>W:弱み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新たな住民や進出企業の見込みが立っていない</li> <li>○現状で、日常的な交流の機会、場所がない</li> <li>○地域資源の発信、有効活用が十分に行われていない</li> </ul>	<b>T:脅威</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少子高齢化のさらなる進展</li> <li>・日常的な交流の減少</li> <li>・歴史や行事の継承が困難に</li> <li>○人口減少への懸念</li> <li>○コロナ禍</li> <li>・イベント開催方法の見直し</li> <li>・周辺住民との交流機会の減少</li> </ul>	
マイナス要因					

### 【モビリティ】

内部環境	<b>S:強み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土地区画整理により、地区周辺で比較的良好な道路の整備が進められている</li> <li>○SICを活用した自動車の利便性が高い地区である</li> </ul>	<b>O:機会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土地区画整理による基盤整備、土地利用の開始</li> <li>・基盤整備による道路整備</li> <li>・交通システム等の見直し</li> <li>○自動運転技術や新たなモビリティ等、移動のIT化が進んでいる</li> </ul>	外部環境
	<b>W:弱み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄道駅が遠い(静岡駅3.6km、東静岡駅3.1km)</li> <li>○土地区画整理地区内は、現状でバス停の空白地区となっている</li> <li>○近・中距離の移動は、自動車への依存度が高い</li> </ul>	<b>T:脅威</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少子高齢化のさらなる進展</li> <li>・移動難民が増加</li> <li>○自動車交通量の増加に伴い、事故発生件数が増加する懸念</li> </ul>	
マイナス要因					

3

## (2) 地区の強み・弱みについて(ウェルネス・エネルギー)

- ・ウェルネス・エネルギーの視点で、地区の強み・弱み・機会・脅威について列挙
- ・視点ごとの課題や地区特性から、改めて地区の現状について理解を深め、まちづくりの方針検討に繋げる

### 【ウェルネス】

内部環境	<b>S:強み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○区画整理内及び周辺道路は、今後整備され歩きやすくなる</li> <li>○スケールメリットを生かしたウォーキングコースの設定が可能</li> <li>○地形が平坦で徒歩移動が容易</li> </ul>	<b>O:機会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オンライン診療や電子カルテ等、医療のIT化が進んでいる</li> <li>○ウェアラブルデバイスの普及により、個人の健康・活動データの取得が容易になりつつある</li> <li>○企業の健康経営の注目など健康意識の高まり</li> </ul>	外部環境
	<b>W:弱み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウォーキングコースやランニングコースが設定されていない</li> <li>○目的地となる施設が集積している鉄道駅周辺の徒歩圏外に位置し、移動手段として車に依存してしまう傾向にある</li> <li>○近隣に総合病院がない</li> </ul>	<b>T:脅威</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少子高齢化のさらなる進展</li> <li>○全国的に生活習慣病患者が増加傾向</li> <li>○静岡市全体で全国平均に比べて市民の歩数が少なく、歩行する習慣が他都市に比べて定着していない</li> </ul>	
マイナス要因					

### 【エネルギー】

内部環境	<b>S:強み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○区画整理により新たなエネルギーシステムの構築がしやすい</li> <li>○企業立地が多く、屋根を利用した太陽光発電がしやすい</li> <li>○地域資源(農地、河川、緑地)を活用したクリーンエネルギーの創出が期待できる(バイオマス、小水力発電等)</li> </ul>	<b>O:機会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○恩田原・片山地区が「脱炭素地域」に指定されている</li> <li>○エネルギーの効率化に向けた先進技術(エネルギーマネジメントシステム等)の開発・取組が進んでいる</li> <li>○全国的にナッジ※を活用した省エネ行動の誘発の取組が進められている</li> </ul>	外部環境
	<b>W:弱み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現状で未開発エリアがあり、エネルギーの創出・活用の担い手が不明確</li> <li>○公共交通が不便であり、自動車での移動に依存しがちであり環境負荷が大きい</li> </ul>	<b>T:脅威</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国的な電力不足、電気料金の高騰</li> <li>○海岸に近いエリアであり災害(地震、津波等)への対策が必要</li> </ul>	
マイナス要因					

※「ナッジ」とは、行動科学の知見から、望ましい行動をとれるよう人を後押しするアプローチのこと

4